

# 最先端・高規格 自動化コンテナターミナル

*Phase-1 December 2005*

*Phase-2 December 2008*

*Phase-3 In near future*



## ＜会社概要＞ 飛島コンテナ埠頭株式会社

所在地：〒490-1446 愛知県海部郡飛島村東浜3丁目1-4

設立年月日：平成15年7月1日

営業開始日：平成17年12月1日

### ◆事業内容

- ① コンテナ埠頭に係る管理、及び運営
- ② コンテナ埠頭に係る施設の建設・改良及び管理、賃貸
- ③ 荷役用運搬機器類の管理、及び賃貸

### ◆資本金

4億9,500万円

### ◆出資会社

川崎汽船 株式会社、株式会社 商船三井、日本郵船 株式会社  
旭運輸 株式会社、伊勢湾海運 株式会社、株式会社 上組、東海協和 株式会社  
株式会社 フジトランスコーポレーション、名港海運 株式会社  
飛島物流サービス 株式会社

## 【お問い合わせ】

TEL：0567-57-2200 FAX：0567-57-2481

URL：<https://www.tcb-terminal.co.jp/>



## 飛島コンテナ埠頭 株式会社

## TOBISHIMA CONTAINER BERTH Co.,Ltd

# 名古屋港を「世界に発信できる次世代港湾へ」日本初の自動化コンテナターミナル

## 船社・港運・陸運の三位一体で深化と進化、 世界に発信できる日本を代表するコンテナターミナルへ



代表取締役社長 西村 繁

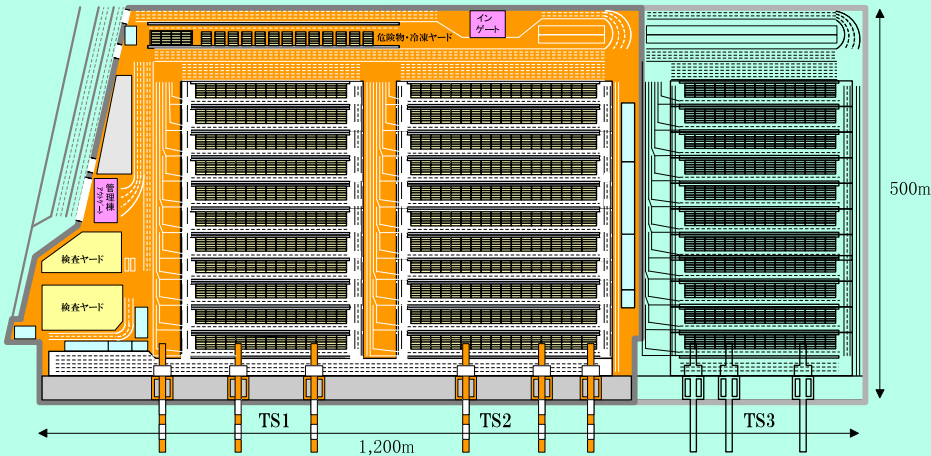
弊社は、阪神淡路大震災時の港湾機能の脆弱性への対応を背景に船社・港運・陸運の三業種が連携し、2003年7月に設立し、国際競争力強化、民間主導のターミナル運営を目指し、スーパー中枢港湾の名古屋港モデルターミナルとして2005年12月に開業しました。様々な耐震設備に加え、開業時より世界初の遠隔自働RTGを導入、更に、2008年には無人搬送台車（AGV）を導入、以降、日本初の自動化コンテナターミナルとして進化して参りました。

開業以来、お客様（荷主・船社）、官民の港湾関係の皆様、地元の皆様に支えられ、関係者の皆様のご尽力もあり、大きな事故もなく、稼働率も高く、良品廉価なサービスの提供と自動化コンテナターミナルとして改善・進化することが出来ました。

大きく変動する世界経済、ESG・CNへの対応、海外港の圧倒的な競争力、等 日本の港を取り巻く環境は厳しさを増すばかりですが、その中でもお客様に選ばれ続けるサステナブルな港として名古屋港、そして日本の港の発展に貢献し続け、世界に発信し続けることが出来る様に飛島コンテナ埠頭株式会社は更なる深化と進化を続けて参る所存です。引き続き、どうぞ宜しくお願い致します。

施設名称		TS1(2008年12月～)	TS2(2005年12月～)
総面積	岸壁・エプロン/ヤード	42,750㎡/311,750㎡	合計:354,500㎡
岸壁	延長	350m	400m+(50m)
	水深	-16m	
ガントリークレーン	形式	ロープトローリー式・モノボックス構造	
	基数	3基	3基
	定格荷重	コンテナ(45t)、重量物(65t)、ハッチカバー(50t)	
	アウトリーチ	船横22列対応/63m(岸壁より59m)	
コンテナゲート	レーン数	インゲート:6レーン、アウトゲート:6レーン	
コンテナヤード	蔵置能力	1,980(GS) x 4段 = 7,920TEU*	2,442(GS) x 4段 = 9,768TEU
	他検査ヤード等(GS*)	税関・植検(275TEU)、危険物(104TEU)、凍(162TEU)	
RTG*	機数	25機	
	定格荷重	40.6t	
AGV*	台数	34台	
冷凍施設	コンセント数	240個(440V)	

\*GS: Ground Slot \*RTG: Rubber Tired Gantry Crane \*AGV: Automated Guided Vehicle \*TEU: Twenty-foot Equivalent Units



### AGV(自働搬送台車)第二期/H20.12月より導入

AGVは、RTG・GCとのムラのない連携で、ターミナル全体の稼働状況を考慮したベストパフォーマンスで「本船荷役作業・構内シフト作業」にて高いサイクルタイムを実現します。また、ターミナル内の搬送機能は、AGVと有人トレーラの役割を明確にし、ムダのない効率的な設備運用を行います。

安全対策は、物流動線をムリなく解りやすくした走行路の分離、的確に誘導する遮断機制御、2重・3重のセンサーによるサポートが万全を期しています。



### インゲート/アウトゲート

インゲートでは、外来トレーラの搬入・搬出受付を行います。コンピュータシステムが受付ブースへ進入したトレーラのナンバープレートを自動で読み取り、トレーラ会社を検知し、迅速にセキュリティ確保します。又、トレーラのRFID(無線式簡易端末)から送信された受付情報をもとに、ターミナル全体の作業状況から最適なコンテナ保管場所を決定し、コンテナ受渡し場所を返信します。常に、ターミナル全体の荷役機器を最大活用する平準化作業により、繁忙時でも外来トレーラを待たせません。

アウトゲートでは、チェッカーがハンディ端末で搬出受付情報と現物コンテナをチェックすることでゲートクレーンで確実な搬出作業を行います。



### 自動化RTG(ラバータイヤ式ガントリークレーン)

世界で初めて、ラバータイヤ式の門型クレーンでの自動化を実現しました。レール式門型クレーンと比べて設備投資費用の軽減、保管コンテナの小ロット化による作業の平準化、必要に応じた他レーンへの移動、地震対策等のメリットがあります。作業方法は二通りで外来トレーラ作業では、有人による遠隔自働RTG操作を行い、本船荷役作業では、AGVとの完全自動作業を行います。



### 遠隔自働RTG操作

管理棟内の遠隔操作室で、少数数のオペレータが自働RTGをモニタ映像で遠隔操作するオペレーティングデスクにて「安全・確実」に外来トレーラへコンテナを積降します。モニタでの確認は鮮明で見やすく安全性を向上しました。

364日、24時間稼働ターミナルとして深夜・極寒・酷暑、高所作業といった作業環境を少子・高齢化社会に向けて改善を行っています。



### ガントリークレーン

大水深(-16m)岸壁にそびえ立つガントリークレーンは、世界最大級コンテナ船(コンテナ横積22列)に対応した、高規格で軽量化/コストパフォーマンスの高いモノボックスタイプを採用。また、地震対策として免震機能を有し、ジャケット工法による耐震岸壁と合わせて「安心・安全」な岸壁設備となっています。

